

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専 門 課 程 商 業 実 務	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	夜・通信	228.0	160.0	
	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	夜・通信	285.0	160.0	
工 業 専 門 課 程	*1 モバイルアプリケーション科 (スマートフォンアプリ開発科)	夜・通信	912.0	160.0	
	情報システム科	夜・通信	342.0	160.0	
	システムエンジニア科	夜・通信	826.5	240.0	
	ネットワークシステム科	夜・通信	655.5	160.0	
	*2 ネットワークセキュリティ科 コース制なし:1年生のみ在籍	夜・通信	684.0	240.0	
	*2 ネットワークセキュリティ科 ネットワークコース:2・3年生が在籍	夜・通信	598.5	240.0	
	*2 ネットワークセキュリティ科 セキュリティコース:2・3年生が在籍	夜・通信	598.5	240.0	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	1111.5	320.0	
	電気工事科	夜・通信	1710.0	160.0	
	*3 ホームエレクトロニクス技術科	夜・通信	855.0	160.0	
	*4 AIテクノロジーエンジニア科 1年生のみ在籍	夜・通信	655.5	240.0	
	*4 組込みソフトエンジニア科 2年生のみ在籍	夜・通信	798.0	160.0	
機械CAD設計科	夜・通信	1254.0	160.0		

	建築科 建築工学コース	夜・通信	1567.5	160.0	
	建築科 CAD設計コース	夜・通信	1881.0	160.0	
	建築大工技能科	夜・通信	912.0	160.0	
	インテリア科	夜・通信	1339.5	160.0	
文化・ 教養 専門 課程	ゲームクリエイター科 ゲーム企画コース	夜・通信	456.0	160.0	
	ゲームクリエイター科 ゲームCGコース	夜・通信	1140.0	160.0	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	1225.5	240.0	
	CGクリエイター科	夜・通信	1738.5	160.0	
	Webクリエイター科	夜・通信	1396.5	160.0	
	デジタルデザイン科	夜・通信	1425.0	160.0	
	デジタルミュージック科	夜・通信	1482.0	160.0	
	*5 映像放送科 コース制なし:1年生のみ在籍	夜・通信	1681.5	160.0	
	*5 映像放送科 映像演出コース:2 年生が在籍	夜・通信	1710.0	160.0	
	*5 映像放送科 制作技術コース:2 年生が在籍	夜・通信	1681.5	160.0	
	*6 音響制作科 コース制なし:1年生のみ在籍	夜・通信	1738.5	160.0	
	*6 音響制作科 レコーディングエン 지니어コース:2年生が在籍	夜・通信	1738.5	160.0	
	*6 音響制作科 コンサートスタッフコ ース:2年生が在籍	夜・通信	1738.5	160.0	
(備考)					
*1 モバイルアプリケーション科:今年度入学生より学科名称変更 1年生:モバイルアプリケーション科 2年生:スマートフォンアプリ開発科					
*2 ネットワークセキュリティ科:今年度入学生よりコース制廃止 1年生:コースなし 2年生:コース制(ネットワークコース、セキュリティコース) 3年生:コース制(ネットワークコース、セキュリティコース)					
*3 ホームエレクトロニクス技術科:今年度入学生より募集停止 1年生:在籍なし 2年生:在籍					

<p>*4AIテクノロジーエンジニア科:今年度入学生より学科名称変更、修業年限変更  1年生:AIテクノロジーエンジニア科(3年課程)  2年生:組込みソフトエンジニア科(2年課程)</p> <p>*5映像放送科:今年度入学生よりコース制廃止  1年生:コースなし  2年生:コース制(映像演出コース、制作技術コース)</p> <p>*6音響放送科:今年度入学生よりコース制廃止  1年生:コースなし  2年生:コース制(レコーディングエンジニアコース、コンサートスタッフコース)</p>
--

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>・ホームページにて公表  <a href="https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#jitumu">https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#jitumu</a></p>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2019.pdf</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	【前職】NEC東芝情報システム(株)相談役	平成29年9月28日 ～令和元年9月27日	渉外担当
非常勤	【現職】(株)JC-21 教育センター 取締役	平成29年9月28日 ～令和元年9月27日	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	平成29年9月28日 ～令和元年9月27日	コンプライアンス担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	平成29年9月28日 ～令和元年9月27日	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>① 教育課程編成委員会の設置  カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。  委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ  1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。  2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。  3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成  決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開  1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。  2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>・ホームページにて公表  <a href="https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus">https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。  ・100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。  ・評定が2以上(建築科においては3以上)の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><b>【学習成績、出席状況の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100点法による評価点、5段階法による評定点、総得点（評価点の合計）、平均点（総得点÷科目数）、成績順位、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。</li> <li>・各科目の5段階法の評定、成績順位、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。</li> </ul> <p><b>【成績分布状況の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5段階法で評価した各科目の評定の平均値（評定平均）を求め、学科・学年・コースごとに成績分布状況表を作成する。</li> </ul>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa_2019.pdf</a></li> </ul>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><b>【進級認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p><b>【卒業認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo_2019.pdf</a></li> </ul>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2018.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2018.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2018.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2018.pdf</a>
財産目録	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2018.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2018.pdf</a>
事業報告書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2018.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2018.pdf</a>
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2018.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2018.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1111.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1111.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	46 人	1 人	4 人	5 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																				
24 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (95.8%)	1 人 (4.2%)																																				
(主な就職、業界等) 日本郵便（株）、ENEOS グローブエナジー（株）																																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定 3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定 3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	16人	6人	リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	23人	11人	日本語ワープロ検定 2級	③	14人	7人	文書デザイン検定 1級	③	17人	10人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	17人	サービス接客検定 3級	③	14人	4人	コミュニケーション検定 初級	③	24人	16人	Microsoft Office Specialist Excel	③	24人	21人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
日商簿記検定 3級	③	16人	6人																																				
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	23人	11人																																				
日本語ワープロ検定 2級	③	14人	7人																																				
文書デザイン検定 1級	③	17人	10人																																				
ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	17人																																				
サービス接客検定 3級	③	14人	4人																																				
コミュニケーション検定 初級	③	24人	16人																																				
Microsoft Office Specialist Excel	③	24人	21人																																				
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																							
(備考) (任意記載事項) 文書デザインコンテスト 審査員特別賞受賞 ビジネスプロデュースコンペティション プレゼン賞授業																																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43 人	4 人	9.3 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間/単位	855.0 <small>単位時間/単位</small>	28.5 <small>単位時間/単位</small>	1368.0 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	46 人	0 人	4 人	5 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

##### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

##### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

##### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

##### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

##### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

##### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																								
21 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (85.7%)	3 人 (14.3%)																																								
(主な就職、業界等) CTCマネジメントシステム（株）、仙台ガスサービス（株）																																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定 3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	③	21人	5人	日商簿記検定 3級	③	12人	4人	リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	21人	9人	日本語ワープロ検定 2級	③	16人	14人	文書デザイン検定 1級	③	21人	20人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	19人	サービス接客検定 3級	③	7人	4人	コミュニケーション検定 初級	③	20人	16人	Microsoft Office Specialist Excel	③	21人	21人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
ITパスポート試験	③	21人	5人																																								
日商簿記検定 3級	③	12人	4人																																								
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	21人	9人																																								
日本語ワープロ検定 2級	③	16人	14人																																								
文書デザイン検定 1級	③	21人	20人																																								
ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	19人																																								
サービス接客検定 3級	③	7人	4人																																								
コミュニケーション検定 初級	③	20人	16人																																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	21人	21人																																								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																											
(備考) (任意記載事項) MOS世界学生大会 日本予選入賞																																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	3 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) 進路変更・病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイルアプリケーション科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	370.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1852.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	17 人	0 人	7 人	2 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
15 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (93.3%)	1 人 (6.7%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社 メンバーズ、株式会社 第一情報システムズ、株式会社 シーエスイー、IT系企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報検定 情報システム試験 システムエンジニア認定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	15人	10人	基本情報技術者試験	②	5人	2人	情報検定 情報システム試験 システムエンジニア認定	③	4人	3人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	14人	12人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	15人	10人																				
基本情報技術者試験	②	5人	2人																				
情報検定 情報システム試験 システムエンジニア認定	③	4人	3人																				
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	14人	12人																				
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考)（任意記載事項）																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	1 人	3.8 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0  単位時間／単位	1395.5 <small>単位時間／単位</small>	114.0 <small>単位時間／単位</small>	1026.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200 人	160 人	0 人	3 人	2 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
76 人 (100%)	0 人 (0%)	64 人 (84.2%)	12 人 (15.8%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社ジャステック 株式会社シー・エス・イー 東北インフォメーション・システムズ株式会社																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>41人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	40人	22人	情報セキュリティマネジメント試験	③	20人	3人	応用情報技術者試験	③	16人	4人	ITパスポート試験	③	41人	20人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	③	40人	22人																				
情報セキュリティマネジメント試験	③	20人	3人																				
応用情報技術者試験	③	16人	4人																				
ITパスポート試験	③	41人	20人																				
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考)（任意記載事項）																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
156 人	6 人	3.8 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	システムエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	2679.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1197.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	115 人	0 人	3 人	2 人	5 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)																																
(主な就職、業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、CTCシステムマネジメント株式会社、キーウェアソリューションズ株式会社																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>23人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td> <td>②</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td> <td>②</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	5人	3人	基本情報技術者試験	②	23人	9人	応用情報技術者試験	②	9人	2人	データベーススペシャリスト試験	②	1人	1人	情報処理安全確保支援士試験	②	2人	1人	SEA/J 基礎コース試験	③	15人	5人	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	10人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
ITパスポート試験	②	5人	3人																																
基本情報技術者試験	②	23人	9人																																
応用情報技術者試験	②	9人	2人																																
データベーススペシャリスト試験	②	1人	1人																																
情報処理安全確保支援士試験	②	2人	1人																																
SEA/J 基礎コース試験	③	15人	5人																																
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	10人	6人																																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																			
(備考) (任意記載事項)																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
100 人	9 人	9.0 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークシステム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0  単位時間／単位	912.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1425.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	30 人	0 人	8 人	0 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
19 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)																
(主な就職、業界等) 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、株式会社JR東日本情報システム等、ネットワーク運用・管理を行う企業。																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	18人	3人	ITパスポート試験	③	3人	2人	CompTIA IT Fundamentals	③	18人	16人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	③	18人	3人																
ITパスポート試験	③	3人	2人																
CompTIA IT Fundamentals	③	18人	16人																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																			
(備考)（任意記載事項）																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	2 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) 病気 除籍者		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ科 (コースなし) 1年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間/単位	1054.5 <small>単位時間/単位</small>	114.0 <small>単位時間/単位</small>	171.0 <small>単位時間/単位</small>	<small>単位時間/単位</small>	<small>単位時間/単位</small>
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人	22 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要)

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

(概要)

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

(概要)

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

(概要)

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1年生のみ 人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等) 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在籍は1年生のみ。資格取得等の実績なし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ科 ネットワークコース 2年生・3年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1653.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	18 人	1 人	3 人	5 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
8 人 (100%)	人 ( %)	8 人 (100%)	0 人 (0%)																												
(主な就職、業界等) 株式会社日本プレスメントセンター、PFU東日本株式会社																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 応用テクニカル試験</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>情報検定 情報活用試験 1級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ドットコムマスターベーシック</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	情報セキュリティマネジメント試験	③	6人	4人	基本情報技術者試験	③	8人	1人	SEA/J 基礎コース試験	③	8人	3人	SEA/J 応用テクニカル試験	③	1人	1人	情報検定 情報活用試験 1級	③	2人	2人	ドットコムマスターベーシック	③	8人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
情報セキュリティマネジメント試験	③	6人	4人																												
基本情報技術者試験	③	8人	1人																												
SEA/J 基礎コース試験	③	8人	3人																												
SEA/J 応用テクニカル試験	③	1人	1人																												
情報検定 情報活用試験 1級	③	2人	2人																												
ドットコムマスターベーシック	③	8人	8人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	3 人	10.3 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ科 セキュリティコース 2年生・3年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1653.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	30 人	1 人	3 人	5 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

##### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

##### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

##### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

##### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

##### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

##### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																								
16 人 (100%)	人 ( %)	16 人 (100%)	0 人 (0%)																																								
(主な就職、業界等) リコージャパン株式会社、東北インフォメーション・システムズ株式会社、株式会社IIJエンジニアリング																																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ネットワークスペシャリスト試験</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>CCENT</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>CCNA Routing and Switching</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 応用コース マネジメント試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 応用コース テクニカル試験</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	15人	8人	応用情報技術者試験	③	7人	3人	情報処理安全確保支援士試験	③	3人	2人	ネットワークスペシャリスト試験	③	2人	1人	CCENT	③	4人	4人	CCNA Routing and Switching	③	1人	1人	SEA/J 基礎コース試験	③	16人	12人	SEA/J 応用コース マネジメント試験	③	16人	11人	SEA/J 応用コース テクニカル試験	③	11人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
基本情報技術者試験	③	15人	8人																																								
応用情報技術者試験	③	7人	3人																																								
情報処理安全確保支援士試験	③	3人	2人																																								
ネットワークスペシャリスト試験	③	2人	1人																																								
CCENT	③	4人	4人																																								
CCNA Routing and Switching	③	1人	1人																																								
SEA/J 基礎コース試験	③	16人	12人																																								
SEA/J 応用コース マネジメント試験	③	16人	11人																																								
SEA/J 応用コース テクニカル試験	③	11人	2人																																								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																											
(備考)（任意記載事項）																																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	4 人	7.5 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	高度ITエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4218.0  単位時間／単位	2935.5 <small>単位時間／単位</small>	342.0 <small>単位時間／単位</small>	1995.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	65 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
9 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (88.9%)	1 人 (11.1%)																
(主な就職、業界等) 株式会社DNPデジタルソリューションズ、エリクソン・ジャパン株式会社、パーソルR&D株式会社																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Oracle認定Javaプログラマ, Bronze SE 7/8</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	9	6	応用情報技術者試験	②	6	3	Oracle認定Javaプログラマ, Bronze SE 7/8	③	1	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	9	6																
応用情報技術者試験	②	6	3																
Oracle認定Javaプログラマ, Bronze SE 7/8	③	1	1																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45 人	2 人	4.4 %
(中途退学の主な理由) 経済的理由、転学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工事科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	969.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1254.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70 人	65 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
25 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 日本電設工業株式会社、東京地下鉄株式会社、太平電業株式会社、日本リーテック株式会社、大和電設工業株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング等															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>②</td> <td>25</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>2級電気工事施工管理技術検定</td> <td>②</td> <td>20</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一種電気工事士	②	25	19	2級電気工事施工管理技術検定	②	20	13
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一種電気工事士	②	25	19												
2級電気工事施工管理技術検定	②	20	13												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	1 人	1.7 %
(中途退学の主な理由) 転学（大学への進学）		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ホームエレクトロニクス技術科 (募集停止:2年生のみ在籍)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間/単位	142.5 <small>単位時間/単位</small>	28.5 <small>単位時間/単位</small>	1054.5 <small>単位時間/単位</small>	<small>単位時間/単位</small>	<small>単位時間/単位</small>
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	2 人	0 人	2 人	2 人	4 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する(評価点)。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター(自習環境)を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
4 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (75%)	1 人 (25%)																
(主な就職、業界等) パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社、日本NCRサービス株式会社等、メンテナンス関連企業																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>家電製品エンジニア(生活)</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>工事担任者デジタル第3種</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第二種電気工事士	②	4人	4人	家電製品エンジニア(生活)	③	4人	2人	工事担任者デジタル第3種	②	4人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
第二種電気工事士	②	4人	4人																
家電製品エンジニア(生活)	③	4人	2人																
工事担任者デジタル第3種	②	4人	1人																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	AIテクノロジーエンジニア科 1年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	4	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0 単位時間/単位	1111.5 単位時間/単位	28.5 単位時間/単位	85.5 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人	15 人	0 人	6 人	5 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

##### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

##### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

##### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

##### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

##### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

##### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1年生のみ 人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等) 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在籍は1年生のみ。資格取得等の実績なし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	組込みソフトウェア科 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	4	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間/単位	513.0 単位時間/単位	28.5 単位時間/単位	684.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	1 人	0 人	6 人	5 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
8 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (87.5%)	1 人 (12.5%)								
(主な就職、業界等) ケーヒンエレクトロニクステクノロジー株式会社、株式会社アルプス技研、東京ドロウイング株式会社、株式会社テクノプロテクノプロ・デザイン社											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック	③	7人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック	③	7人	3人								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3 %
(中途退学の主な理由) 退学：1名（病気） 転科：2名		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	機械CAD設計科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	883.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	1282.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	21 人	0 人	4 人	4 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
8 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (100%)	0 人 (0%)																								
(主な就職、業界等) 株式会社アルプス技研、株式会社メイテックフィルダーズ等、機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験2級</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験1級(機械)</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験2級	③	8	4	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	4	3	CGクリエイター検定ベーシック	③	5	2	Microsoft Office Specialist Excel	③	8	8	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	8	8
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験2級	③	8	4																								
2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	4	3																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	5	2																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	8	8																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	8	8																								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	1 人	4.3 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 建築工学コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	313.5 <small>単位時間／単位</small>	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	27 人	0 人	5 人	6 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が3以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
10 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (90%)	1 人 (10%)								
(主な就職、業界等) カメイ株式会社、クラシタス株式会社、古久根建設株式会社、タクトホーム株式会社等建設業界											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	9	3
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
2級建築施工管理検定	②	9	3								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人宮城県建築士事務所協会主催みやぎ建築未来賞（競技設計）大賞受賞											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	4 人	13.3 %
(中途退学の主な理由) 病気、経済的理由、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 CAD設計コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1054.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1396.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	20 人	2 人	5 人	6 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が3以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
11 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (100%)	0 人 (0%)								
(主な就職、業界等) 株式会社ティエスケー、株式会社日本ハウスホールディングス、株式会社松家住宅等建設業界											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	11	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
2級建築施工管理検定	②	11	4								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項) 一般社団法人宮城県建築士事務所協会主催みやぎ建築未来賞（競技設計）大賞受賞											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	2 人	10.5 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築大工技能科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	684.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1539.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	15 人	0 人	4 人	5 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)								
(主な就職、業界等) 有限会社 栗駒建業、株式会社 小坂橋建業、株式会社 大和工務店 等											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>玉掛技能講習修了</td> <td>①</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	玉掛技能講習修了	①	6	6
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
玉掛技能講習修了	①	6	6								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	1 人	9.1 %
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	798.0 <small>単位時間／単位</small>	313.5 <small>単位時間／単位</small>	1140.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	30 人	0 人	4 人	8 人	12 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
11 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (90.9%)	1 人 (9.1%)																												
(主な就職、業界等) AGC硝子建材、池下設計、チョウエイハンズ、真栄芸 等																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>カラーコーディネーター試験3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験基礎</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>2級インテリア設計士</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級リビングスタイリスト	③	11人	6人	福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	8人	3人	福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	2人	2人	カラーコーディネーター試験3級	③	7人	6人	2次元CAD利用技術者試験基礎	③	11人	5人	2級インテリア設計士	③	6人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
2級リビングスタイリスト	③	11人	6人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	8人	3人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	2人	2人																												
カラーコーディネーター試験3級	③	7人	6人																												
2次元CAD利用技術者試験基礎	③	11人	5人																												
2級インテリア設計士	③	6人	6人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																															
(備考)（任意記載事項）																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	1 人	4.2 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科 ゲーム企画コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	769.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1482.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		28 人	0 人	5 人	6 人	11 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
17 人 (100%)	0 人 (0%)	17 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社ハ・ン・ド、株式会社シーズネスト、株式会社ソフトギア等、ゲーム、IT関連企業															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	17人	12人	色彩士検定3級	③	16人	11人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGエンジニア検定 ベーシック	③	17人	12人												
色彩士検定3級	③	16人	11人												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	2 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 転学、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科 ゲームCGコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	399.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1767.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	28 人	0 人	4 人	6 人	10 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社D.A.G、エス・エー・エス株式会社、株式会社NIXE等、ゲーム、CG、映像関連企業															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定 ベーシック	③	12人	11人	色彩士検定3級	③	12人	11人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGクリエイター検定 ベーシック	③	12人	11人												
色彩士検定3級	③	12人	11人												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	2 人	6.9 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0  単位時間／単位	627.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	2622.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150 人	140 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
32 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (93.8%)	2 人 (6.3%)																
(主な就職、業界等) 株式会社B.B.スタジオ、株式会社ヘッドロック、株式会社バンク・オブ・イノベーション、株式会社フォーネクスト 他IT業界等																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>31</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>24</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	31	26	基本情報技術者試験	③	24	8	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	5	5
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
CGエンジニア検定 ベーシック	③	31	26																
基本情報技術者試験	③	24	8																
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	5	5																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																			
(備考)（任意記載事項） DA・TE・APPS! 2019 ゲーム部門 最優秀賞受賞																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119 人	7 人	5.9 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、学校生活不適應、経済的理由、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	CGクリエイター科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	456.0 <small>単位時間／単位</small>	256.5 <small>単位時間／単位</small>	1539.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70 人	79 人	0 人	2 人	4 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
25 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (84%)	4 人 (16%)								
(主な就職、業界等) 株式会社タツノコプロ、株式会社ルーデンス、株式会社ミックス											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>25人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定ベーシック	③	25人	20人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
CGクリエイター検定ベーシック	③	25人	20人								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） リコージャパン株式会社共催デジタルサイネージコンテストグランプリ、優秀賞受賞。「チャリティー年賀状デザインコンテスト2019」2名入選。											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	4 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、転学、入学取消		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	Webクリエイター科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間/単位	427.5 単位時間/単位	171.0 単位時間/単位	1653.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	31人	0人	3人	3人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
9 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (77.8%)	2 人 (22.2%)																												
(主な就職、業界等) 株式会社メンバーズ 株式会社メンバーズキャリア 株式会社ステップ 等、Web・デザイン関連企業																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>Webデザイナー検定 エキスパート</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>情報検定 情報活用試験 2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス 3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定 ベーシック	③	9人	9人	Webデザイナー検定 エキスパート	③	9人	2人	マルチメディア検定 ベーシック	③	9人	9人	色彩士検定 3級	③	9人	5人	情報検定 情報活用試験 2級	③	9人	4人	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	9人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
Webデザイナー検定 ベーシック	③	9人	9人																												
Webデザイナー検定 エキスパート	③	9人	2人																												
マルチメディア検定 ベーシック	③	9人	9人																												
色彩士検定 3級	③	9人	5人																												
情報検定 情報活用試験 2級	③	9人	4人																												
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	9人	8人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	4 人	16.7 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	1966.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	21 人	0 人	3 人	4 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
15 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (86.7%)	2 人 (13.3%)																												
(主な就職、業界等) 株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ、株式会社デザインココ、株式会社アドコーポレーション																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>アドビ認定アソシエイト Illustrator CC</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	12人	CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	13人	色彩士検定	③	15人	10人	DTP検定ディレクション	③	13人	6人	アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	7人	5人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	15人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	12人																												
CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	13人																												
色彩士検定	③	15人	10人																												
DTP検定ディレクション	③	13人	6人																												
アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	7人	5人																												
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	15人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	1 人	3.4 %
(中途退学の主な理由) 病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルズ講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルミュージック科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	541.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1681.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	41 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
14 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (71.4%)	4 人 (28.6%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社ノア 株式会社セント 株式会社緒方製作所																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>14人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	MIDI検定3級	③	14人	12人	舞台機構調整技能士3級	②	14人	7人	マルチメディア検定 ベーシック	③	14人	11人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	14人	14人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
MIDI検定3級	③	14人	12人																				
舞台機構調整技能士3級	②	14人	7人																				
マルチメディア検定 ベーシック	③	14人	11人																				
サウンドレコーディング技術認定試験	③	14人	14人																				
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	3 人	9.4 %
(中途退学の主な理由) 病気、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	映像放送科 (コースなし) 1年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間/単位	741.0  単位時間/単位	28.5  単位時間/単位	456.0  単位時間/単位	0.0  単位時間/単位	0.0  単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	16 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1年生のみ 人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等) 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在籍は1年生のみ。資格取得等の実績なし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	映像放送科 映像演出コース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	199.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	940.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人	5 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)								
(主な就職、業界等) 株式会社富士工芸社、株式会社フラックス											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話しことば検定 2級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	話しことば検定 2級	③	4人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
話しことば検定 2級	③	4人	2人								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	1 人	9.1 %
(中途退学の主な理由) 転学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	映像放送科 制作技術コース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	370.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	769.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人	10 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
9 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (77.8%)	2 人 (22.2%)								
(主な就職、業界等) 株式会社千代田ビデオ、株式会社クロステレビ、株式会社企作舎											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者(初級)</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者(初級)	③	9人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
映像音響処理技術者(初級)	③	9人	4人								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	4 人	16.7 %
(中途退学の主な理由) 病気・学業不振・就職・経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音響制作科 (コースなし) 1年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間/単位	712.5  単位時間/単位	28.5  単位時間/単位	484.5  単位時間/単位	0.0  単位時間/単位	0.0  単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	8 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1年生のみ 人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等) 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在籍は1年生のみ。資格取得等の実績なし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音響制作科 レコーディングエンジニアコース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	199.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	940.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人	0 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社千代田ビデオ、株式会社クリエイティブスタッフ、株式会社福島映像企画															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士3級	②	2人	2人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	2人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
舞台機構調整技能士3級	②	2人	2人												
サウンドレコーディング技術認定試験	③	2人	2人												
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音響制作科 コンサートスタッフコース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	199.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	940.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人	14 人	0 人	1 人	6 人	7 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社響映、株式会社シネフォーカス															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士3級	②	2人	2人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	2人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
舞台機構調整技能士3級	②	2人	2人												
サウンドレコーディング技術認定試験	③	2人	2人												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考)（任意記載事項）															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	1 人	5.9 %
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報ビジネス科	70,000	528,000	287,000	「その他」の欄に 計上した費用  1.施設実習費 2.教科書教材費 3.諸経費
モバイルアプリケーション科	70,000	624,000	297,000	
情報システム科	70,000	624,000	297,000	
システムエンジニア科	70,000	624,000	297,000	
ネットワークシステム科	70,000	624,000	297,000	
ネットワークセキュリティ科	70,000	624,000	297,000	
高度ITエンジニア科	70,000	624,000	297,000	
電気工事科	70,000	636,000	302,000	
AIテクノロジーエンジニア科	70,000	624,000	297,000	
機械CAD設計科	70,000	600,000	322,000	
建築科	70,000	600,000	322,000	
建築大工技能科	70,000	636,000	332,000	
インテリア科	70,000	588,000	332,000	
ゲームクリエイター科	70,000	624,000	287,000	
ゲームエンジニア科	70,000	624,000	287,000	
CGクリエイター科	70,000	636,000	292,000	
Webクリエイター科	70,000	606,000	322,000	
デジタルデザイン科	70,000	606,000	322,000	
デジタルミュージック科	70,000	642,000	287,000	
映像放送科	70,000	648,000	297,000	
音響制作科	70,000	648,000	292,000	
修学支援 (任意記載事項)				
<p><b>下記修学支援は入学時のみ適用</b></p> <p><b>特別奨学金制度</b> 経済的理由で進学が困難と認められる者で、進学目的がはっきりしており、本校学生として相応しいと認められる者を書類選考により免除                  特別奨学生A…30万円免除(15名程度)                  特別奨学生B…20万円免除(30名程度)</p> <p><b>試験特待生制度</b> 試本校独自の学力試験の結果により免除                  試験特待生A…40万円(5名程度)                  試験特待生B…30万円(10名程度)                  試験特待生C…20万円(20名程度)                  試験特待生D…10万円(40名程度)</p> <p><b>資格特待生制度</b> 入学時に本校基準資格を取得している者                  資格特待生A…30万円                  資格特待生A…20万円                  資格特待生A…10万円</p> <p><b>親族入学制度</b> 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在校生の場合、5万円免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページにて公表</li> </ul> <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/h29_evaluation_1.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/h29_evaluation_1.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』（定数 14 名）を設置し、学校関係者評価を行うものとする。</p> <p>学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の 11 項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。</p> <p>学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。</p> <p>今年度開催する学校関係者評価委員会（評価年度：2018 年度）は、8 月に実施し、評価結果は9月中旬に公表する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
宮城県産業技術総合センター	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（1 年）	企業等委員
株式会社ヒノタマ	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
東北電子専門学校 卒業生	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日（2 年）	卒業生
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	業界団体
株式会社アルゴグラフィックス	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	業界団体
株式会社ミヤギテレビサービス	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
株式会社リード・サイン	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
株式会社ヤマハミュージックリテイリング	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
株式会社 J C - 2 1 教育センター	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員
リコージャパン株式会社	平成 30 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日（2 年）	企業等委員

株式会社サンパワー	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
東北芸術工科大学	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	有識者
株式会社メンバーズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/h29_evaluation_2.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/h29_evaluation_2.pdf</a></li> </ul>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校基本情報 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/report/kihon/">https://www.jc-21.ac.jp/report/kihon/</a></li> <li>刊行物：入学案内 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryo.html">https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryo.html</a> より資料請求 電話：022-224-6501 より資料請求</li> </ul>
---